



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
市議団ニュース

図書館の「公共」の姿

市立図書館協議会が提言書

5月18日、市社会教育協議会が開かれ、議題の一つとして、市立図書館協議会が2年間にわたって検討してきた市立図書館の民間委託化等についての提言書が示されました。同提言の一端を引用します。

「図書館は、市民の知的要求にこたえて求められた情報や資料を提供するとともに、これまで蓄積された市民の共有財産ともいえる多くの

5月18日、市社会教育協議会が開かれ、議題の一つとして、市立図書館協議会が2年間にわたって検討してきた市立図書館の民間委託化等についての提言書が示されました。同提言の一端を引用します。

「したがって図書館は公共機関としての責任を持った運営の保障が必要であり、窓口業務の民間委託や指定管理者制度の導入は、図書館の運営になじまないと考えました」



原発。映画とトーク

5月19日、東海村で原発を考えるドキュメンタリー映画「ミツバチの羽音と地球の回転」の上映会がありました。地元の若いお母さんたちが中心になって企画し、わずか1ヶ月の準備で600人ちかい観客となりました。映画では、原発建設に反対する住民に、電力会社の社員が「一次産業では地域は過疎化するばかりです」と拡声器でよびかける場面などが記録されています。

写真は、同映画の監督・鎌仲ひとみさんと東海村の村上達也村長のトークセッション。1時間30分の対談の最後に「もう終わっちゃうの?」という村長さんのつぶやき。脱原発をかけたがら、ふだんは推進派のなかで奮闘していることをうかがわせて印象的でした。



「マアトあかね」客足回復のきざし

「地産地消」は痛手

震災時、市外からの被災者の避難所となっていた「マアトあかね」も業務を再開し1年以上がたちました。春・秋のおまつりには、例年並みに2千人をこえる人出となっています。宿泊客は、昨年秋口から少しずつ回復のきざしがみえ、また法事や宴会で市内や福島県いわき市からの利用客が増えています。

懸念される放射能汚染については、施設周辺や散策路をこまめに測定し、市総務課の助言も受けながら除染に努めているとのこと。水たまりを放置しないとか、こまめに落ち葉を片づけるなど、ホットスポットができないよう対処して

こうした検討のうえに、市民サーブیس向上と人件費抑制のために嘱託員制度の導入が提案されています。会議に出席した鈴木や子議員は「高い志、深い内

容に敬意を表したい。まさに、誰もが平等に知識や情報を容易に無料で入手できる体制を保障していく拠点としての図書館の充実を望みたい。また生涯学習の今後として、自主防災や放射能汚染などの学習テーマにも取り組んでいくよう働きかけていきたい」と述べています。

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

います。

小学校の体験学習が、市の支援策もあって増加しています。子どもたちの活動場所は、そのつど測定や除染もおこなってありますが、首都圏からは敬遠されています。一方、いわき市の保育園の宿泊体験

では細かな対応に感謝されたとのことです。

「食材は地産地消で取り組んできて、お客さんの評判もあがってきたところだったので、放射能汚染で思うように地元のものを使えないのは痛手。それでもサーブیس全般の向上のため、職員全員で努力している。アンケートやネット上でも少しずつ好評価をいただけるようになってきた」と、茜平ふるさと財団の大島洋一常務。さらに、

「プロテティ先の中庭からの



モッコウバラ

咲き誇る「木香薔薇」、大津町北町にて。

古い絵はがきに見る郷土の風景

北茨城市歴史民俗資料館で、小企画展「古い絵はがき展」がはがきに見る郷土の風景」が開かれています。7月1日まで。展示さ

雨情記念館
で小企画展

れているのは、市民から寄託された絵はがきです。「明治末から大正・昭和初期にかけて時代がおおらかに流れた頃、絵はがきは



一大ブームを呼び、様々な出来事を伝える手段として利用されたり、観光地の記念品として販売されたりしました。(案内文より)。

北茨城市はじめ、いわき市や高萩市、さらに大洗海岸や水戸偕楽園など、県内各地の絵はがきが並んでいます。かつての大北川河口や平潟港、いわき市久ノ浜周辺などの貴重な風景の写真の数々。往時をしのぶことができる、見ごたえのある展示です。